付篇Ⅱ

吉田構内農学部附属農場の分布調査

田畑　直彦

1　はじめに

第６章で報告した農学部バイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査時に、調査対象となった５号田では須恵器を主体とする多数の土器片を採集し、周辺の水田や畑においても土器片が散布しているのを確認した。実験水田においては、過去においても土器が採集されている。しかし、統合移転時の調査以来、附属農場敷地における発掘調査は少なく、分布調査が行われたことはない。また、土器片の分布を確認した際、一部については耕土中に含まれる礫とともに畦道などに廃棄されていたうえ、採集した土器には、耕作により破砕された痕跡を持つものが多かった。そこで、早急に現状における遺物の分布を把握し、埋蔵文化財の遺存状況を探るために、農学部の許可を得て分布調査を行った。

現地調査の方法は図示した地区を１単位として、田畑が単独で踏査した。調査期間は平成９年12月から平成10年５月の間で、水田の刈り入れ後、耕されている状態で行った。なお、位置図で記載のない箇所は、耕作のため立ち入れなかったか、休耕等の理由で耕されていなかったため、調査を行うことができなかった。

2　調査結果

以下では、各地点ごとに概要を述べたい。

Ａ地区（正門東側実験水田・Fig.85）

平成10年２月21日に踏査を行った。本地区では踏査の結果、Ａ－１地点で２点、Ａ－２地点で２点、合計４点の須恵器片を採集するにとどまった。構内東側の実験水田（Ｇ～Ｋ地区）と比較すると、採集点数が極端に少ない。本地区では、過去に発掘調査が行われたことはなく、埋蔵文化財の有無は不明である。掲載遺物はＡ－１地点出

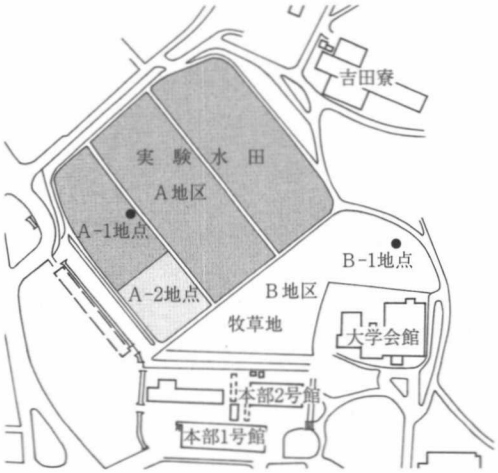


Fig.85　調査区位置図①

土遺物で、１は須恵器坏身の底部、２は須恵器坏蓋の口縁部である。

Ｂ地区（大学会館北側牧草地・Fig.85）

平成10年２月14日に踏査を行った。本地区は統合移転時に第Ⅰ地区Ｄ区とされ、吉田遺跡調査団により発掘調査が行われた[1]。また、埋蔵文化財資料館が大学会館敷地の発掘調査を行っている[2]。これらの調査で、谷地形と縄文～近世の遺物包含層、近世大溝、古墳時代の井戸などが検出されている。ただし、本地区では、現状で約１ｍ前後の盛土がなされているため、採集遺物が本地区以外からの客土に含まれていた可能性がある。

遺物は、Ｂ－１地点で須恵器坏身の底部を1点、須恵器坏蓋片を１点、合計２点を採集するにとどまった。

Ｃ地区（貯水池南側水田・Fig.86）

平成９年12月13日、10年２月21日、３月15日に踏査を行った。なお、これに前後して、平成９年３月12日、平成10年５月９日にも遺物を採集した。本地区は統合移転時に第Ⅳ地区と呼ばれた地域に含まれる。第３章で報告したように溜池の東側では、農学部附属農場排水管布設に伴う試掘調査で、古代から中世にかけての遺物包含層、ピット群を検出している。また、西に隣接する丘陵斜面には横穴墓の存在が指摘されている[3]。本地区では、全域で耕土中に礫を多く含んでいる。

Fig.86　調査区位置図②

本地区の採集遺物は64点である。須恵器が主体であるが、姫島産黒曜石の剥片を１点採集しており、周囲に縄文～弥生時代の遺構と遺物が分布する可能性を示唆する。３は須恵器坏身の口縁部、４は須恵器坏蓋の口縁部、５は須恵器甕の口縁部である。６は須恵器

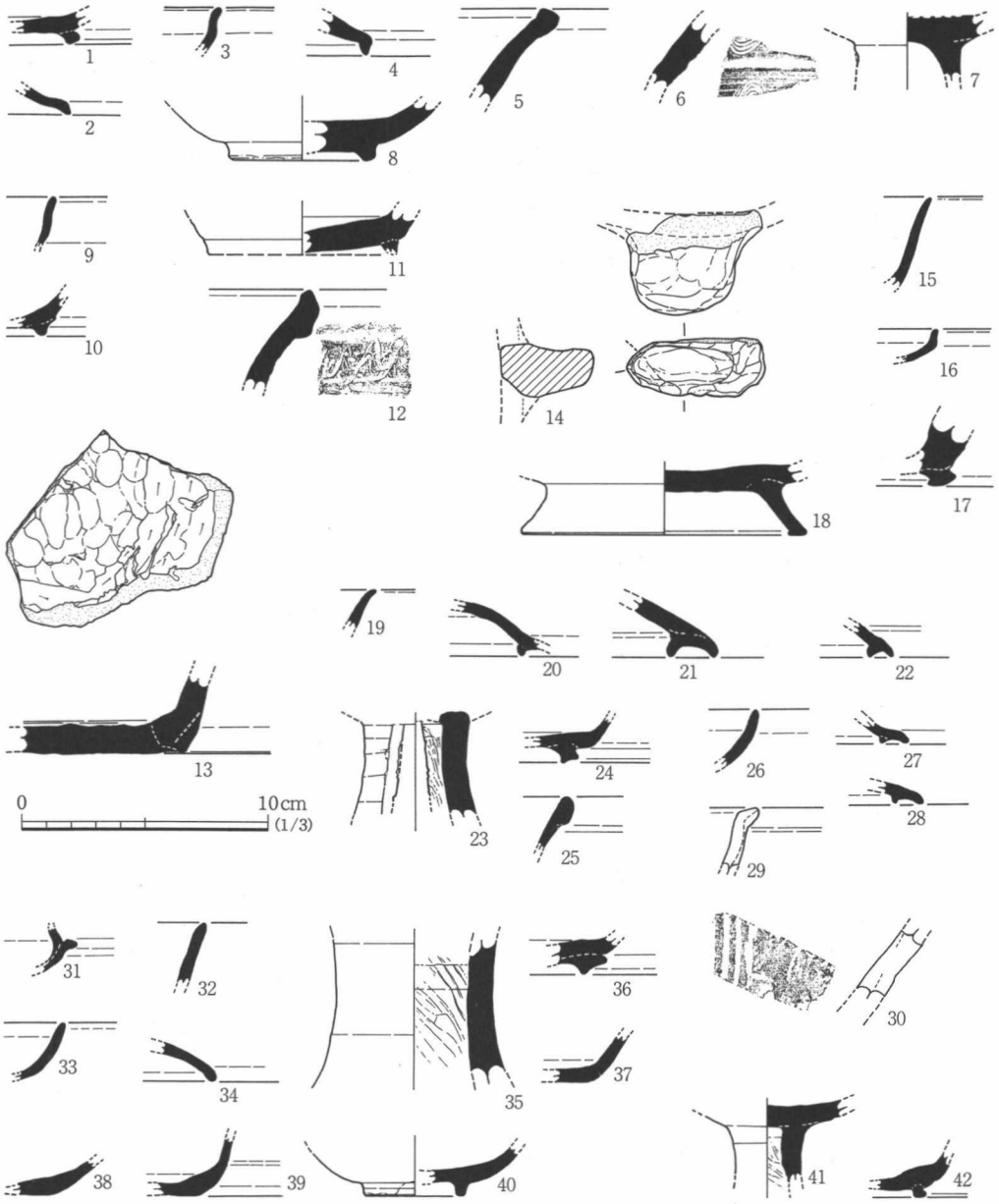


Fig.87　採集遺物実測図

甕の頸部と考えられる。沈線の上下に櫛描波状文を施す。7は須恵器高坏の坏部～脚部である。8は龍泉窯系青磁碗の底部である。高台内は露胎で内外面に施釉する。

D地区（観測所北側水田・Fig.86）

平成9年12月5日、平成10年1月13日、2月21日、3月4日、3月15日に踏査を行った。

本地区は道路を挟んだ東側が統合移転時の第Ⅳ地区、西側が第Ⅰ地区に相当する。調査当時、一部については耕作中であったが、須恵器片を主体として、47点の遺物を採集した。古代の遺構と遺物が確認された農業観測観測実験施設[4]に隣接しており、同時期の遺構群が展開している可能性が高い。9は須恵器坏身の口縁部か。10、11は須恵器坏身の底部、12は須恵器甕の口縁部である。13は近世粗陶器甕の底部と考えられる。

Ｅ地区（第２学生食堂東側畑・Fig.86）

平成10年５月９日に踏査を行った。本地区にはビニールハウスが多く建ち並んでおり、また、耕作中の箇所が多かったため、ごく限定された範囲での調査となった。そのため、器種不明の須恵器片を１点採集したに過ぎない。ただし、平成11年度に行った電柱布設に伴う立会調査で古代の遺物包含層と遺構を確認していることから、南半部を中心に同時期の遺構群が分布しているものと推測される。

Ｆ地区（観測所西側畑・Fig.86）

平成10年３月４日、４月27日、５月５日、５月６日、５月９日に踏査を行った。本地区は昭和62年[5]、平成３年[6]にも遺物が採集されている。農業観測観測実験施設の西に隣接しており、古代の遺構群が分布している可能性が高い。37点の遺物を採集した。14は土師器甕または甑の把手である。15は須恵器坏身の口縁部である。16は須恵器盤の口縁部か。17は須恵器坏身の底部である。18は須恵器壺の底部と考えられる。

Ｇ～Ｋ地区（構内東側実験水田　１～５号田・Fig.86）

平成９年11月26日、12月３日、６日、12月11日、12日、12月13日、平成10年１月10日、１月13日、２月14日、２月21日、２月26日、３月５日、４月27日に踏査を行った。また、平成９年３月12日にも遺物を採集した。過去には、Ｊ地区（４号田）で昭和60年、61年[7]に弥生土器、須恵器が採集されている。なお、Ｋ地区（５号田）はバイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査を行っていた関係で踏査回数が多くなった。いずれの地区も耕土中に礫を多く含んでおり、同調査で検出された河川が存在する可能性が高い。また、遺物は北半部で多く採集しており、遺構の密度と関連する可能性がある。以下各地区ごとに述べたい。

Ｇ地区（構内東側実験水田　１号田）

北半部を中心に40点の遺物を採集した。19は須恵器坏身の口縁部、20・21は須恵器坏蓋の口縁部である。

Ｈ地区（構内東側実験水田　２号田）

北半部を中心に24点の遺物を採集した。22は須恵器坏蓋の口縁部である。

I地区（構内東側実験水田　3号田）

北半部を中心に29点の遺物を採集した。23は須恵器高坏の脚部である。透かし穴の一部が残存する。24は須恵器坏身の底部である。25は白磁の口縁部である。口縁部が玉縁状を呈する。

J地区（構内東側実験水田　4号田）

39点の遺物を採集した。26は須恵器高坏の坏部か。27･28は須恵器坏蓋の口縁部である。29は瓦質土器の口縁部である。30は瓦質土器擂鉢の胴部である。

K地区（構内東側実験水田　5号田）

72点の遺物を採集した。31は須恵器坏身の口縁部か。32は須恵器坏身の口縁部、33は須恵器皿の口縁部、34は須恵器坏蓋の口縁部である。35は須恵器長頸壺の頸部である。36～38は須恵器坏身の底部である。39は須恵器壺の底部か。40は施釉陶器の碗か。内外面に施釉し、貫入が認められる。

L地区（椹野寮北側牧草地・Fig.86）

本地区は統合移転当時、第Ⅱ地区と呼ばれていた地区に相当し、吉田遺跡調査団の発掘調査によって古代～中世の柱穴・溝が検出されている。また、古墳の埋葬施設の一部と推測される板石、埴輪片が出土したとされる。しかし、保存のためすぐに埋め戻されており、詳細は不明である[8]。その後、昭和54年に山口大学考古学部によって円筒埴輪片が採集された。昭和60年に吉田寛氏は採集された埴輪片の検討を行い、時期は川西編年Ⅴ期に相当する6世紀前半頃のもので、埴輪の存在から本地点に首長墓クラスの古墳が存在する可能性を指摘している[9]。また、本地区では昭和60年段階でも多数の土器片が散布していたという。

本地区は、平成10年2月22日に踏査を行った。図示した範囲全域を踏査したが、L－1地点でのみ14点の遺物を採集した。41は須恵器高坏の坏部～脚部である。42は須恵器坏身の底部である。図示した以外に瓦質土器片、磁器片なども採集したが、古墳に関連する遺物は採集することができなかった。

3　まとめ

今回調査を行った農学部附属農場は統合移転前の水田を造成したため、耕土・表土の下に造成土がみられる。このため、採集遺物が他から持ち込まれた客土に含まれていた可能性がある。また、A・B・L地区では採集点数が少なかったが、B・L地区では発掘調査で遺構と遺物が確認されているように、現況が地下の遺構・遺物の存在を反映していない

可能性もある。したがってＡ地区でも遺構・遺物が存在する可能性がある。一方、比較的採集遺物が多いＣ～Ｋ地区が注目される。附属農場関係者によれば、Ｃ～Ｋ地区では統合移転直後から耕作時に遺物が出土し、耕作の障害になることが多かったという。これらの状況から、地下に遺構・遺物が存在する可能性が高い。採集遺物の約９割が須恵器で、時期が判断できるものは７世紀後半から10世紀にかけてのものが主体であることから、Ｃ～Ｋ地区及びその周辺には古代の遺構・遺物が存在するのであろう。

調査後、構内の中央部には空閑地がほとんどないため、平成12年度の総合研究棟や平成14年の解剖実習棟など、新営建物の敷地が構内東部の農学部附属農場敷地に求められるようになった。調査の結果、第８章で述べたように、この一帯には古代における何らかの官衙関連施設の存在が確実となった。また、埴輪を伴う古墳の存在も注目されよう。以上により、吉田構内東部の農学部附属農場敷地は、構内全体における埋蔵文化財保護の観点から、第１学生食堂と大学会館前庭部の遺跡保存地区に匹敵する重要な地区であり、今後の施設整備にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意を払う必要がある。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「付篇Ⅰ　吉田遺跡第Ⅰ地区Ｄ区の調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅢ』、1995年）

2）山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年）

3）石川卓美『平川文化散歩』（山口市平川公民館、1972年）

4）山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内農学部農業環境観測実験施設新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ｘ』、1992年）

5）山口大学埋蔵文化財資料館「汚水排水管総改修に伴う立会調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館調査研究年報Ⅵ』、1987年）

6）山口大学埋蔵文化財資料館「農学部仮設プレハブ設置に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅠ』、1993年）

7）山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属農場飼料園排水溝修復整備に伴う立会調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館調査研究年報Ⅴ』、1986年）

8）山口大学吉田遺跡調査団『山口大学構内吉田遺跡発掘調査概報』（山口大学、1976年）

9）吉田寛「吉田遺跡採集の円筒埴輪について」（『山口大学埋蔵文化財資料館調査研究年報Ⅳ』、1985年）

Tab.13　採集遺物一覧表

地　　区	弥生	土師	須恵器	瓦質	陶器	磁器	石器	合計	備　考 (番号は実測図番号)
A地区　(正門東側実験水田)	0	0	4	0	0	0	0	4	1、2
B地区　(大学会館北側牧草地)	0	0	2	0	0	0	0	2	
C地区　(貯水池南水田)	0	3	58	0	1	1	1	64	3～8
D地区　(観測実験施設北側水田)	0	3	42	0	1	1	0	47	9～13
E地区　(第2学生食堂東側畑)	0	0	1	0	0	0	0	1	
F地区　(観測実験施設西側畑)	0	2	34	0	0	1	0	37	14～18
G地区　(1号田)	0	0	39	0	0	1	0	40	19～21
H地区　(2号田)	0	1	22	1	0	0	0	24	22
I地区　(3号田)	0	7	19	0	1	2	0	29	23～25
J地区　(4号田)	0	2	31	3	2	1	0	39	26～30
K地区　(5号田)	0	1	63	4	2	2	0	72	31～40
G～K地区　(1～5号田)	0	3	5	1	0	0	0	9	附属農場技官諸氏の表採
L地区　(椹野寮北側牧草地)	0	1	10	1	1	1	0	14	41、42
合計	0	23	330	10	8	10	1	382	

Tab.14　採集遺物観察表（土器）

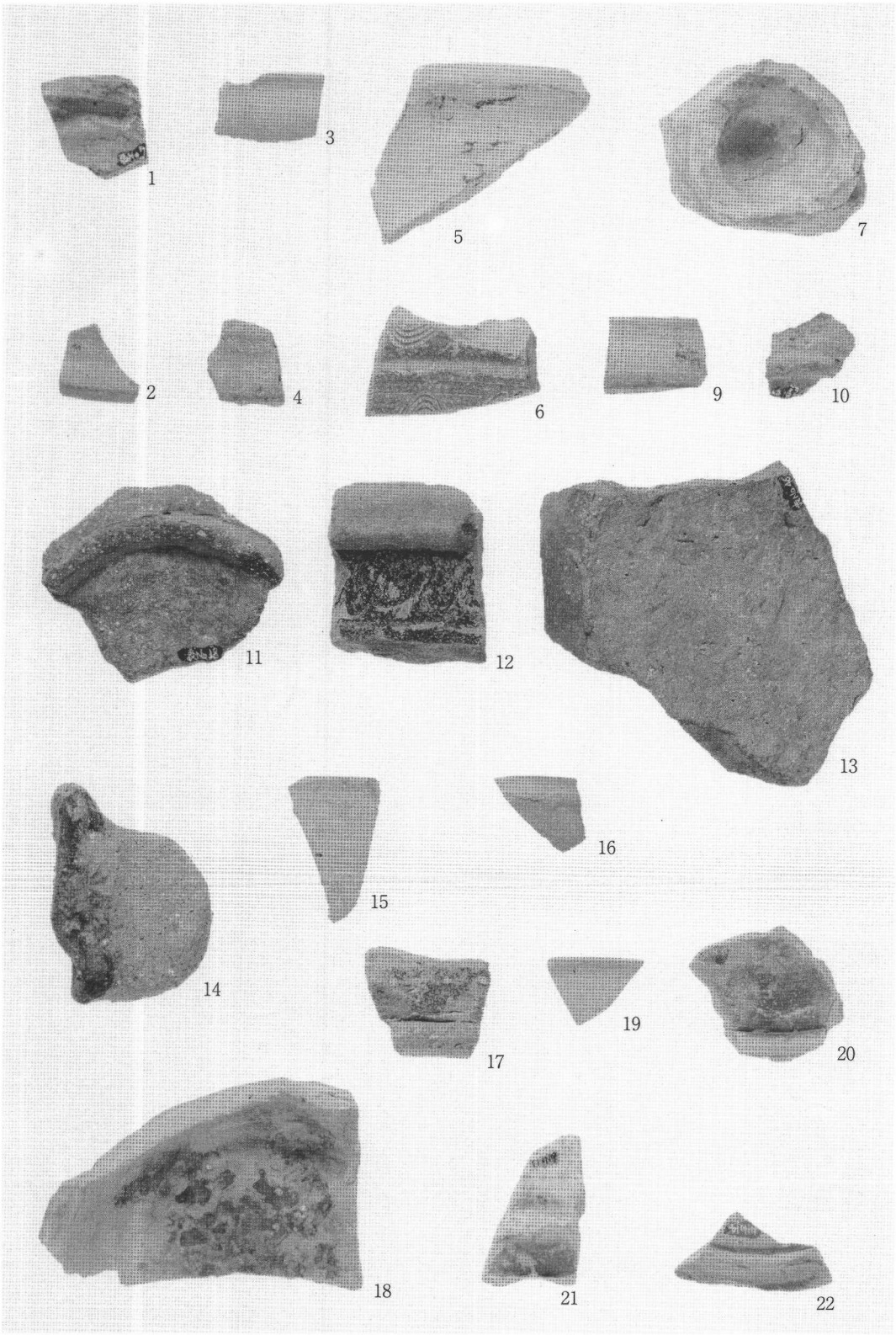
法量（　）は復元値

遺物番号	地　区	器　種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色　調 ①外面②内面	胎　土	備　考
1	A－2地点	須恵器　坏身	底部				青灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	
2	A－1地点	須恵器　坏蓋	口縁部				①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を含む	
3	C地区	須恵器　坏身	口縁部				灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
4	C地区	須恵器　坏蓋	口縁部				灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	断面アンコ状 隙間がみられる
5	C地区	須恵器　甕	口縁部				灰白色	1mm以下の砂粒をわずかに含む	内外面回転ナデ
6	C地区	須恵器　甕か	頸部				①灰色 ②灰黄褐色	精緻	大型甕の頸部か 外面櫛描波状文
7	C地区	須恵器　高坏	坏部～脚部				灰白色	0.5～1mmの砂粒を含む	
8	C地区	磁器　碗	底部		(5.1)		素地　灰白色 釉　オリーブ灰色	精緻	龍泉窯系青磁　高台内露胎　内外面施釉
9	D地区	須恵器　坏身か	口縁部				灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	
10	D地区	須恵器　坏身	底部				灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	
11	D地区	須恵器　坏身	底部		(7.8)		オリーブ灰色	1mm程度の砂粒を含む	
12	D地区	須恵器　甕	口縁部				灰色	0.5mm程度の砂粒を含む	外面櫛描波状文 自然釉のため判別困難
13	D地区	近世粗陶器　甕か	底部				灰色	0.5～2mmの砂粒を含む	須恵質内底面雑なナデ 指頭痕多数残る

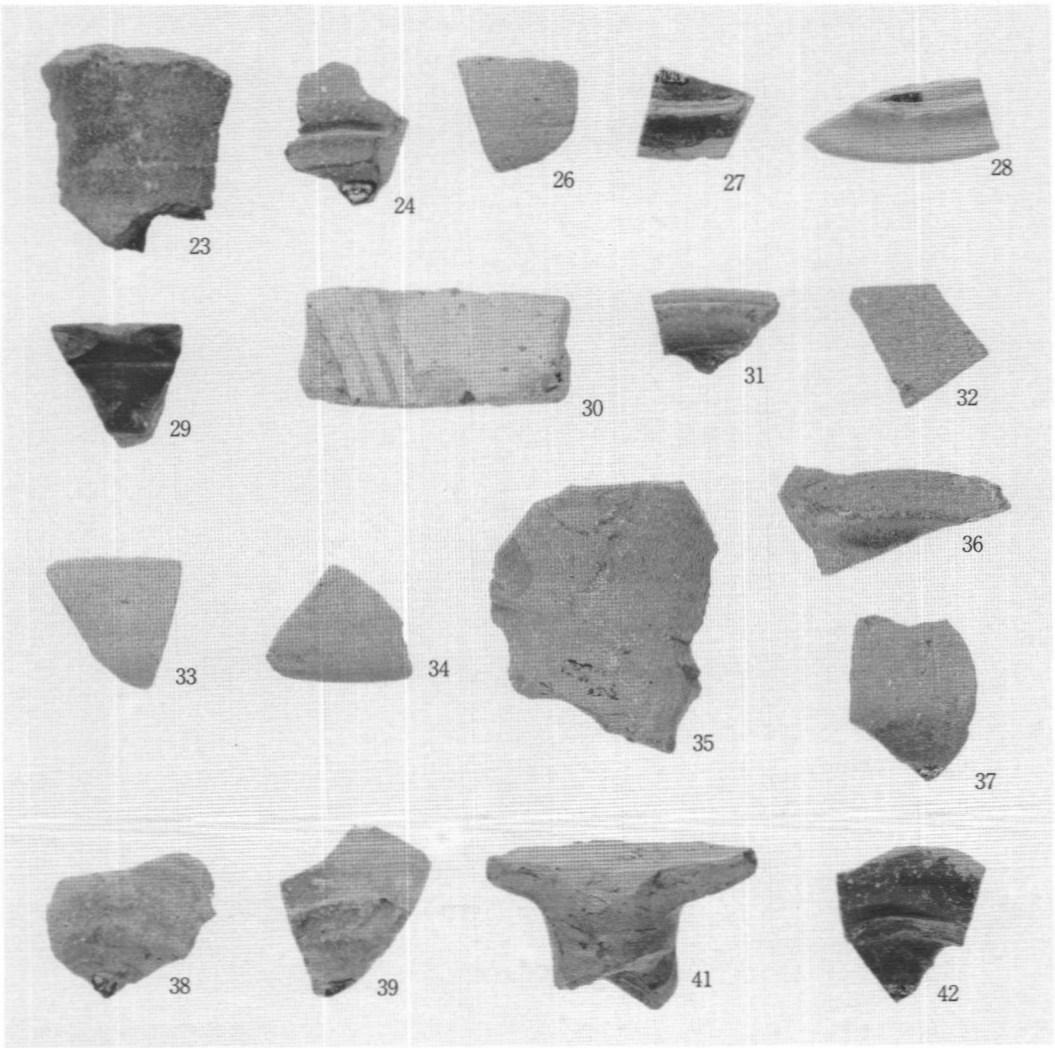
吉田構内農学部附属農場の分布調査

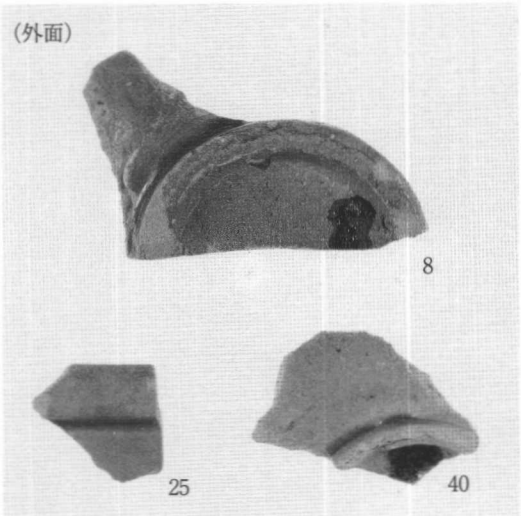
法量（　　）は復元値

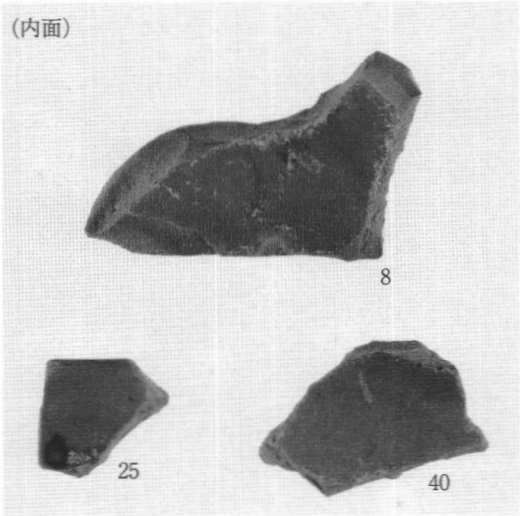
遺物番号	地区	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
14	F地区	土師器　甕もしくは甑	把手				にぶい黄橙色	0.5～2mmの砂粒を含む	
15	F地区	須恵器　坏身	口縁部～胴部				灰白色	微砂粒をわずかに含む	内外面回転ナデ
16	F地区	須恵器　盤か	口縁部				灰色	0.5mm程度の砂粒をわずかに含む	断面アンコ状を呈する
17	F地区	須恵器　坏身	底部				灰色	1mm程度の砂粒をわずかに含む	内底面自然釉付着
18	F地区	須恵器　壺か	底部		(11.3)		灰白色	1mm程度の砂粒をわずかに含む	
19	G地区	須恵器　坏身	口縁部				灰白色	精緻	
20	G地区	須恵器　坏蓋	口縁部				①灰白色 ②灰色	精緻	
21	G地区	須恵器　坏蓋	口縁部				灰白色	1mm以下の砂粒を少量含む	
22	H地区	須恵器　坏蓋	口縁部				黄灰～灰白色	精緻	外面自然釉付着
23	I地区	須恵器　高坏	脚部				灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	2方向透かし孔 2段か
24	I地区	須恵器　坏身	底部				灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
25	I地区	磁器　碗	口縁部				素地　灰白色 釉　灰オリーブ色	精緻	白磁玉縁状口縁内外面施釉
26	J地区	須恵器　高坏坏部か	口縁部～胴部				灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	風化している
27	J地区	須恵器　坏蓋	口縁部				①灰白色 ②暗灰色	精緻	
28	J地区	須恵器　坏蓋	口縁部				灰白色	精緻	断面アンコ状を呈する
29	J地区	瓦質土器	口縁部～胴部				暗灰色	1mmの砂粒をわずかに含む	内外面回転ナデ 口縁端部磨滅
30	J地区	瓦質土器　擂鉢	胴部				①淡黄色 ②灰白色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	風化している
31	K地区	須恵器　坏身か	口縁部				灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	蓋の可能性あり
32	K地区	須恵器　坏身	口縁部				灰色	0.5～1.5mmの砂粒を含む	
33	K地区	須恵器	口縁部				灰白色	0.5～1mmの砂粒を含む	
34	K地区	須恵器　坏蓋	口縁部				灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
35	K地区	須恵器　長頸壺	頸部				灰白色	0.5～1mmの砂粒をわずかに含む	上下反転して別器形になる可能性あり
36	K地区	須恵器　坏身	底部				①灰色 ②灰白色	0.5～2mmの砂粒を含む	
37	K地区	須恵器　坏身	底部				灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	
38	K地区	須恵器　坏身	底部				灰白色	0.5～1mmの砂粒を含む	
39	K地区	須恵器　壺か	底部				①灰色 ②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
40	K地区	施釉陶器　碗か	体部～底部		(4.0)		素地　淡黄色 釉　オリーブ灰色	精緻	陶胎であるが硬質で磁胎に近い
41	L－1地点	須恵器　高坏	坏部～脚部				灰色	0.5～1mmの砂粒をわずかに含む	
42	L－1地点	須恵器　坏身	底部				①黄灰～灰色 ②灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	高台内に沈線あり ヘラ記号もしくは傷か



吉田構内農学部附属農場採集遺物①







吉田構内農学部附属農場採集遺物②